

## 2017/12/02 布川一茶俳句大会

本校学校評議員の大野英二先生や、今年度国語の非常勤講師としてお勤めいただいている二見智子先生が中心となって開催している利根町の「布川一茶俳句大会」。

昨年に引き続き、本校生徒有志、本校教職員有志にもお声をかけていただき、賛助作品として参加させていただきました。

当日会場の徳満寺には、投句した利根町立の小中学校生や一般の方の俳句がずらりと掲示されていました。本校生のコーナーも賛助作品として掲示していただきました。



司会をなさっているのは二見先生。



利根町の町長さんも来ていました

### 【本校生の作品の一部】

夏休み部活のありて休みなく  
夏休み 嗚呼 恋しくて恋しくて  
お月様ガラガラしてて眠れない  
冬来たり 雪が降るのはいつの日か  
雨上がり あちこちで飛ぶトンボ達  
霜柱踏んだら跡が残ってる  
夕焼けに照らされている紅葉の葉

夏休み 皆に会えて嬉しかり  
釣りに行き魚が釣れずもう冬か  
大空に鮮やかに咲く光る花  
夏休みバイトが入って忙しき  
夕焼けの赤い光が家てらす  
竹の子が土の中からこんにちは  
耳障り夜の門番うるさい蚊

素直で、面白い句がたくさんありますね。

利根町布川は、かつて小林一茶も長らく滞在したこともある文化的な土地で、後に「日本民俗学の父」となる柳田国男が幼少期を過ごしたことで知られる場所です。今回の会場である満願寺にある「間引きの絵」を、幼い柳田国男が見て、大きなショックを受け、農村における貧困問題を解決することを決意し、農政の道を志したということは良く知られた事実です。